

令和4年度第1回 静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会会議録

- 1 日 時 令和4年6月15日(水) 19時15分～21時00分
- 2 場 所 静岡市役所 9階 特別会議室
- 3 出席者 (委員) 宗会長、坂ノ上副会長、飯塚委員、石切山委員、  
勝山委員、齋藤委員、不破委員、前坂委員、  
望月信吾委員、望月千夏委員、望月亮委員、森藤委員  
(事務局) 地域包括ケア推進本部 繁田次長、森川次長補佐兼係長、  
草谷主査、北原主任保健師

4 傍聴者 なし

5 次 第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 協議

① 令和4年度静岡市認知症初期集中支援推進事業の取組について(案)

② 令和3年度静岡市認知症初期集中支援推進事業実績

(4) 閉会

6 会議内容

○開 会 会議成立の報告(委員12名中12名の出席により会議は成立)

(1) 協議

① 令和4年度静岡市認知症初期集中支援推進事業の取組について(案)

(資料1、2)

令和4年度静岡市認知症初期集中支援推進事業の取組について(案)を説明、  
質疑応答なし

② 令和3年度静岡市認知症初期集中支援推進事業実績(資料3)

(望月亮委員)

前回3例の事例の説明があったと思いましたが、今回1例増えた4例目の事例の内容について、説明していただきたいということと、事例がある城東・港南・港北・高

部の4包括中3包括が清水に偏っていることに関して、推進本部としてはどのような評価をしているのかということをお教えください。

(事務局)

まず、1つ目の質問について、4つ目の事例は、夫婦2人暮らしの80代女性のケースです。

外出すると帰ってくるできない、食品の賞味期限の管理ができないといった症状が出てきており、夫から地域包括支援センターへ相談がありました。

かかりつけ医が認知症疾患医療センターを受託している病院の整形外科だったため、チームや家族で検討し、同じ病院内にある認知症疾患医療センターの受診に繋ぐことができました。

チーム員会議では、認知症疾患医療センターへスムーズに繋げることができたが、夫婦で住み慣れた家で生活していくことが目標であるため、今後も見守りを続けていくことになりました。

2つ目の質問である、事例が清水区に偏っていることにつきましては、分析できておりません。1年間の事例件数が少ないため、数年間の事例の分析を行えば傾向が見えてくると考えております。

(石切山委員)

チームが活動するにあたって、マニュアルにある関係書式は全部地域包括支援センターが作成することになるのですか。

(事務局)

マニュアルには様式が19種類ありますが、必要に応じて地域包括支援センターに作成していただいております。

(石切山委員)

かなり様式が多いため、書類の作成が原因で初動が遅くなったり、総合相談から認知症初期集中支援チームに移行するにあたっての妨げになっていないか気になりました。

(事務局)

地域包括支援センターからも書類の作成についてご意見をいただいておりますので、今後検討が必要だと感じております。

(石切山委員)

書類の作成が軽減されることにより、初期集中支援チームで対応する件数が増加し、専門的なチームが関わる要因になればと思います。

(飯塚委員)

「かけこまち七間町」で、土日に若年性認知症も含めて相談を受け付けていて、認知症初期集中チームで対応するケースはないのでしょうか。

(事務局)

現在、「かけこまち七間町」にも困難ケースが何事例かありますが、「かけこまち七間町」にいる専門の職員によってケースワークが取られており、各地域包括支援センターと連携して対応ができており、認知症初期集中支援推進チームに関わるまでには、至っておりません。

(飯塚委員)

特に若年性認知症ということで、就労の課題を抱えている方も多いと伺っていますが、そういう案件に挙がるようなケースは今のところないということでしょうか。

(事務局)

今のところはありません。

(望月亮委員)

先ほどの石切山委員のご指摘や、前回の1月の検討委員会の議論でもありましたように、この事業が現状に即していない部分や利用しにくい面があるということは、地域包括支援センターや、委員の方々も感じておられることではないかと実感します。参考資料を見ますと、静岡型地域包括ケアシステムという文言がありますが、利用しやすいように静岡流にモディファイすることができるか教えていただければと思います。

(事務局)

前年度の初回のときにも事業について説明させていただいておりますが、国でも事業を全国展開するにあたり、地域性を活かして支援を行う必要があると示しているため、利用しやすくなるよう検討しております。

(望月亮委員)

わかりました。大変期待しております。

(勝山委員)

他の委員のご指摘と同じように、感じておりました。市内には、地域包括支援センターが29か所、市内約1200人の民生委員がおり、ここ近年認知症についての相談が増加していることを実感しています。認知症初期集中支援チームの実績を見ると、件

数が全然増えておらず、実情がどのようになっているのか疑問に思いました。

(事務局)

認知症の母数も総合相談も増えているにもかかわらず、初期集中支援チームで対応している件数が少なく疑問に思われたと思います。

地域包括支援センターに電話での聴き取りや、地域ケア会議の報告書から、総合相談や圏域ケア会議で事例検討を行い地域で対応できている状況です。ただし、その数について把握できていません。

(勝山委員)

認知症初期集中支援チームという素晴らしいチームについて、周知は十分にできていますか。

(事務局)

認知症初期集中支援チームが各地域包括支援センターにございますので、毎年4月の地域包括支援センター連絡会に参加した際に、認知症初期集中支援チームのチラシで周知を行い、適宜配架をしていただいております。

また活動の状況ですが、資料3に記載しましたが、全国平均値が9.2件となっております。

同じ県内の浜松市へ聴き取りをしたところ、浜松市は本市とは設置方法が異なり認知症初期集中支援チームを開業医の精神科へ市内で4チーム設置しておりました。実績は、令和元年度18件、令和2年度9件、令和3年度5件ということで本市より件数が多い状況でした。

(宗会長)

相談のあった8000件の内の数件と感ずるかもしれませんが、余程大きな問題がない限り、総合相談で対応でき、認知症初期集中支援チームには挙がってこないということだと思います。実際に対応が困難なケースはあります。本人が完全に医療拒否をしたり、介護認定を受けることすら拒否してしまうと医療も介護も何もできなくなるので、そういったとても困難なものがここに挙がってくるのであって、それまで包括が頑張っって何とか糸口を見つけてくれているからあまり挙がってこないというのが現状であり、拒否の事例は割とたくさんあります。それでも何とか解決できているのだと思います。

(石切山委員)

令和2年度から引き継いだケースは令和3年度はなく、0件ということですが、昨年度終了したケースで、認知症初期集中支援チームの実施期間は原則6ヶ月となっておりますが、どういう形で終了したのかということと、終了までの平均日数を教えてく

ださい。

(事務局)

平均日数は、即答できません。終了につきましては、時間はかかりましたが、認知症の専門医に繋がり、要介護認定も受けることができたということで終了しました。

(石切山委員)

ありがとうございます。すごく大変なところで、よく対応していただいているなと思いました。

(望月信吾委員)

資料3の令和3年度のチーム活動の現状から、チーム活動が行われていない地域包括支援センターでは、既にある関係の中で上手く行うことができていると思うので、その要素を分析した上で、認知症初期集中支援チーム事業に活かしていけたらと思いました。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。

(望月亮委員)

この認知症初期集中支援チーム検討委員会は、令和3年度の事業の評価と令和4年度の事業の取組について検討する場だと思えます。先程から多くの委員からご意見があったように、やはり現状に多くの問題があります。

認知症初期集中支援チーム活動の分析や評価を行う事務局の機能が発揮できていないのではないかと感じます。

静岡市として今後問題点を分析し使いやすい事業にして、先程宗会長がおっしゃったように、困難事例を救えるのかということに踏み込んで、委員に提示していただきたいと希望しております。

(事務局)

ありがとうございました。

(宗会長)

困難なケースに対して、対応策を示してもらおうと、どうにもならないという答えが出るかもしれませんが、意義があるかもしれません。確かにその通りだと思います。

(繫田次長)

今回は資料の情報が少ないように思いましたので、次回はケースの情報も皆さんにお示ししたいと思います。また、認知症初期集中支援チームのケースに至らなかった事例も分析のために、地域包括支援センターから情報を集めて、お示しできればと思っています。

(宗会長)

本日本日予定した事項は、以上になります。

○閉会

■会議録確認署名

「令和4年度第1回静岡市認知症初期集中  
支援チーム検討委員会 会議録」について、  
内容を確認しました。

静岡市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会長

氏名(署名) 宇野 幹之